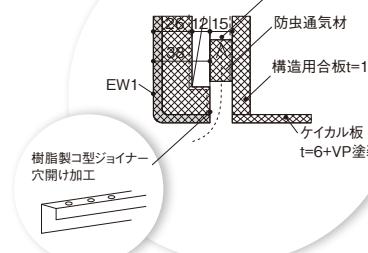
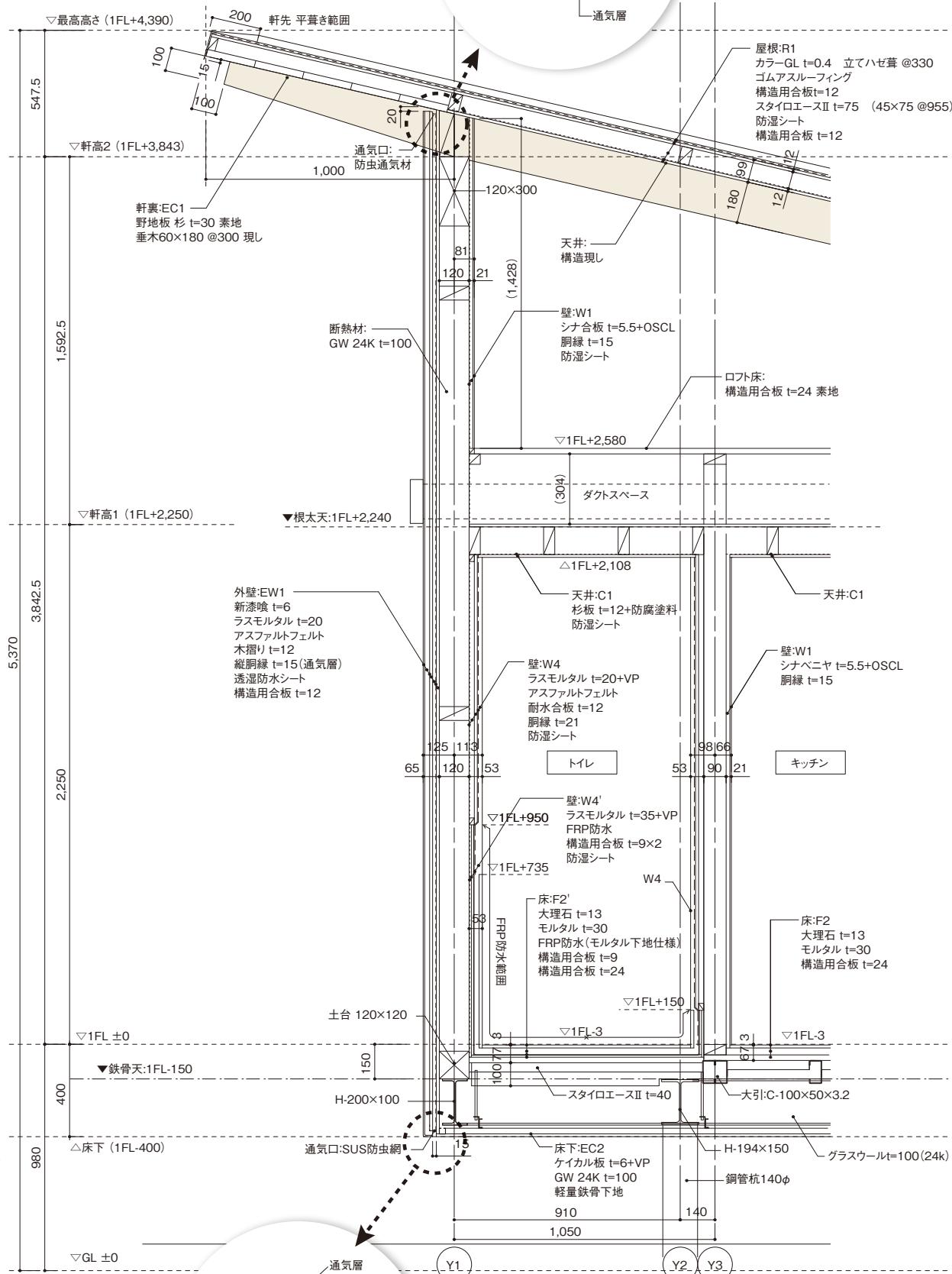


矩計図

A horizontal scale bar with markings at 0, 25, and 50 cm.

建物本体を
8本の杭で
持ち上げる

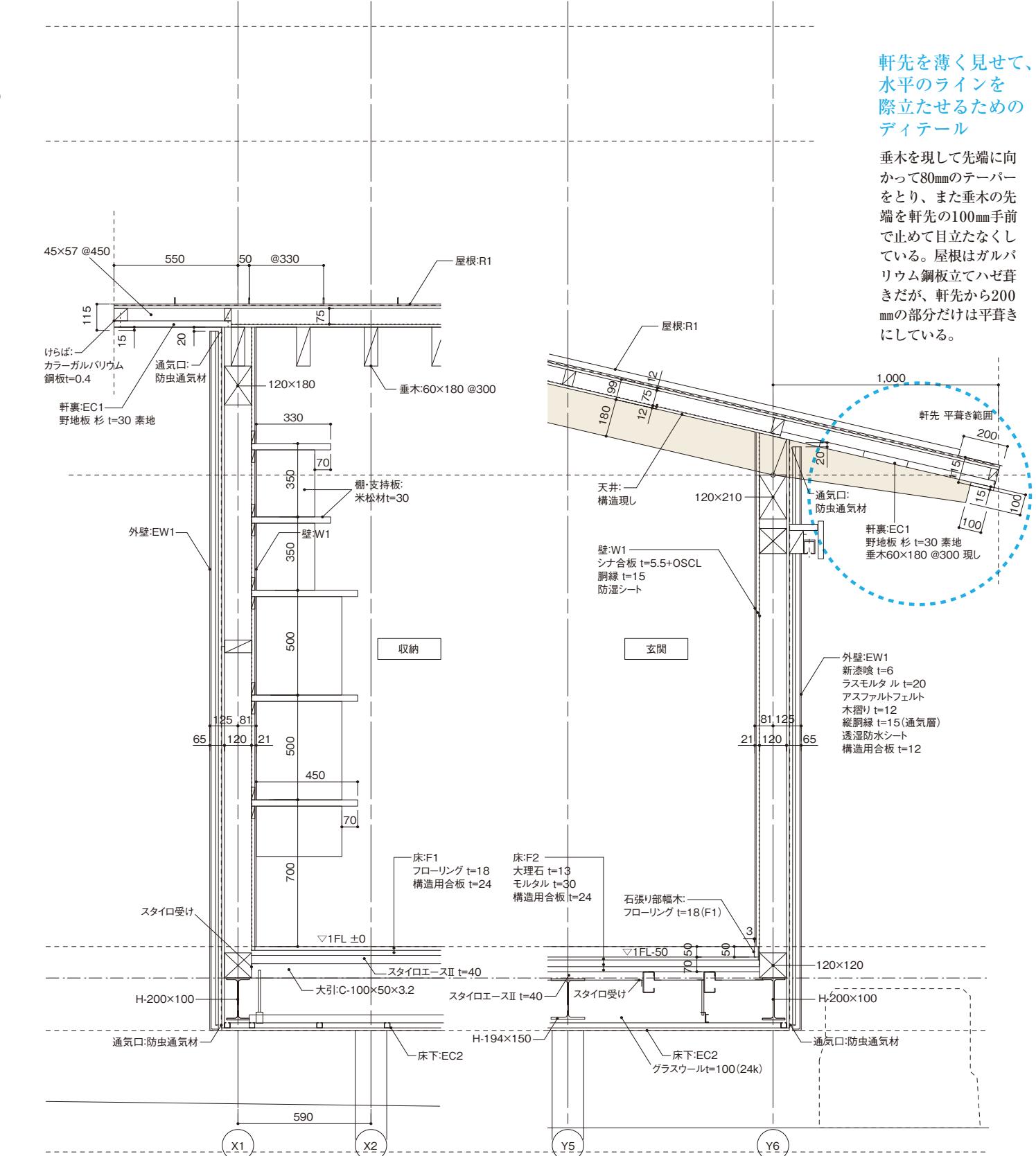
建物を浮かせたいという建築意図と、軟弱地盤対策が、杭を打って建物全体を持ち上げるという発想を生んだ。地表との隙間は土地の傾斜や起伏によって330mm～660mm。钢管杭は140φ・長さ4,600mm～4,930mm、数は短手2本(@4,550mm)×長手4本(@4,700mm)の計8本(それとは別にデッキ支柱杭として1本使用)。表通りから入ってくる道路が幅2mあまりと狭く、この道を通過して5m長の杭を打てる機械があるかどうかを事前に調べたところ、関西地区で2社だけ所有していたという。ちなみに、钢管杭による乾式基礎工法は傾斜地で有効で、長坂さんの別の現場でも進行中のこと。



シームレスな
漆喰仕上げ

外壁4面にシームレスにつながる漆喰仕上は、そのまま床下面mm奥までまわり、それぞれの角は現場で指した半径3mm～4mmアールとなっている

外壁4面にシームレスにつながる漆喰仕上げは、そのまま床下面38mm奥までまわり、それぞれの角は現場で指示した半径3mm～4mmのアールとなっている。



軒先を薄く見せて、
水平のラインを
際立たせるための
ディテール

垂木を現して先端に向かって80mmのテーパーをとり、また垂木の先端を軒先の100mm手前で止めて目立たなくしている。屋根はガルバリウム鋼板立てハゼ葺きだが、軒先から200mmの部分だけは平葺きにしている。